

平成 18 年 度 事 業 計 画

I. 財団事業計画と予算の議決及び事業報告と決算の承認等

| 執行担当 | 寄付行為 | 執行内容 | 準備担当 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------|--------------------|---|------|--|----|----|---|----|---|-----|-----|-----|--|----|----|
| 理事会 | 18条4 11条 12条 | 理事は理事会においてこの法人の業務を議決し執行する。事業計画, 収支予算は理事会の議決を経て文部科学大臣に届ける。 収支決算は財産目録, 貸借対照表, 事業報告書及び財産増減事由書とともに, 監事の意見を付け, 理事会の承認を受けて, 文部科学大臣に報告する。 | 総務局 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第1回理事会 1. 前年度事業報告 2. 前年度収支予算の議決 3. 第10回腸内細菌学会準備報告 </div> | | | | | | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第2回理事会 1. 当年度事業経過及び財政状況報告 2. 次年度事業計画及び収支予算の議決 </div> | | |
| 評議員会 | 29条 | 次の事項については, 理事会においてあらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。(事業計画, 収支予算, 事業報告, 収支決算, 基本財産, 長期借入金, 新たな業務の負担, 権利の放棄, その他理事会において必要と認められたもの。) | 総務局 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第1回評議員会 1. 前年度事業報告, 収支決算に関する理事会の諮問に対処 2. 第10回腸内細菌学会準備報告 </div> | | | | | | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第2回評議員会 1. 当年度事業経過及び財政状況報告 2. 次年度事業計画及び収支予算に関する理事会の諮問に対処 </div> | | |
| 常務理事会 | 18条3 | 常務理事会は理事会の議決に基づき日常の事務に従事する。理事会, 評議員会, 常務理事会の各会に関連する本年度の重要事項 1. 6月開催の第10回腸内細菌学会及び財団設立25周年記念式典の準備推進 2. 財団設立25周年記念書籍発行(2冊)計画の推進 3. H. Tissier 論文(1900年)の翻訳出版計画の推進 4. E. Metchnikoff 著書(1907年)の訳本(1942年)復刻出版計画の推進 5. 腸内細菌学雑誌年間4冊発行計画の推進 6. 公益法人の見直し作業に関連する当財団対処法の検討 7. 財団の将来計画に関する構想案の検討 | 総務局 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第1回常務理事会 1. 前年度事業, 収支決算確認 2. 第10回腸内細菌学会準備確認 </div> | | | | | | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第4回常務理事会 1. 次年度事業, 予算素案討議 2. 財務状況確認 </div> | | |
| | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第2回常務理事会 1. 腸内細菌学会総括 2. 事業遂行予定討議 </div> | | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第5回常務理事会 1. 次年度事業, 予算修正案討議 2. 会員数増減確認と会員増対策 </div> | | | | | | |
| | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第3回常務理事会 1. 事業遂行状況確認 2. 財務状況確認 3. 当年度決算見込み確認 </div> | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第6回常務理事会 1. 次年度事業, 予算案決定 2. 当年度事業遂行状況確認 </div> | | | | | | | | |

平成 18 年 度 事 業 計 画 (案)

II. 事業計画 - 1

| 執行 担当 | 事業計画内容 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------------------------------|--|------------------|----|--------------|------------------|----|--------------|------------------|-----|--------------|------------------|----|--------------|
| 編 集 委 員 会 | <p>1. 出版・情報提供事業 編集委員会</p> <p>1) 機関誌（英文，和文）の編集発行</p> <p>海外の乳酸菌を始めとする腸内細菌研究の展開は目を見張るものがあり，主要な有用菌のゲノム解析は一段落し，プロテオーム，メタボロームといった解析へと急速に進んでいる。国内でも腸内菌叢のもつ機能は，既に一般の人々にも浸透してきており，この分野の研究成果に対する期待は高く，より高度な専門性が要求されている。従って，機関誌である和文誌および英文誌に期待される内容は，これまでに比べさらに先進的で創造的な内容が求められており，今後も会員及び研究者から期待される機関誌となるよう内容の充実を進めてゆく。</p> <p>英文誌年4冊発行は6年目となり，投稿された論文は速やかに公開されている。原著論文数の増加対策と，国内外のこの分野の研究者に対し広く情報発信を行うことを目的として昨年度より開始したJ-Stageでの全文公開は，BM誌の知名度を上げ，関連する専門誌からの引用増と，海外からの投稿を期待している。引き続き，BM誌のCitation Indexへの掲載を当面の目標として据え活動する。</p> <p>和文誌は，総説，解説および実験講座などを，予めたてた年間発行計画に従い提供し，要求性の高い分野の話題提供を行う。昨年は，要旨集を組み込んだ年3冊発行を行ったが，18年度は25周年を記念する話題を取り上げ，予算上可能であれば，年4冊発行を目指したい。こちら原論文をJ-Stageを通じ公開する。</p> | 英文誌 25巻 2号 | | | 英文誌 25巻 3号 | | | 英文誌 25巻 4号 | | | 英文誌 26巻 1号 | | |
| | | 和文誌 20巻 2号 | | | 和文誌 20巻 3号 | | | 和文誌 20巻 4号 | | | 和文誌 21巻 1号 | | |
| | | | | 編 集 委 員 会 | | | 編 集 委 員 会 | | | 編 集 委 員 会 | | | 編 集 委 員 会 |
| 情 報 広 報 委 員 会 | <p>2) ホームページ（HP）編集掲載</p> <p>(1) 当財団のウェブサイトを他のウェブサイトへリンクするように依頼する (2) ビフィズス菌センターが取り組む書籍4冊について推薦図書として紹介する (3) よくある質問（FAQ）の充実を図る (4) 機関誌の原著，総説以外の記事(関連情報)をホームページに掲載する (5) 英文HPの見直しを行う，などホームページの内容の充実を図り，当財団の認知度の向上を目指す。</p> | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

必要に応じて情報委員会を適宜開催
(電子メール連絡を併用)

平成 18 年 度 事 業 計 画

II. 事業計画 - 2

| 執行 担当 | 事業計画内容 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------------------|---|--|--|--|---|---|--|-----|-----|-----|----|----|----|
| 学 術 委 員 会 | <p>1. 学術集会事業</p> <p>1) 学会の開催</p> <p>当財団事業の趣旨は広い意味の宿主と微生物との関係に焦点を合わせた研究の学際的な取組みを産学協同で支援することにある。本事業は機関誌の発行と並んで当財団の重要事業である。</p> <p>(1) 本年度の第 10 回腸内細菌学会開催予定</p> <p>日 時：6月1日(木)9時00分～17時40分 2日(金)9時30分～16時45分</p> <p>会 場：北里大学薬学部(薬学部コンベンションホール)</p> <p>会 長：檀原宏文(北里大学薬学部 微生物学教室)</p> <p>構 成：メインテーマ 腸内フローラ研究のさらなる発展をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25周年記念講演 石坂公成(ラホイアアレルギー免疫研究所名誉所長 日本学士院会員) ・特別講演 1.Elaine E.Vaughan (Wageningen University・Unilever R&D) 「Diversity, Vitality and Activities of Intestinal Lactic Acid Bacteria and Bifidobacteria Assessed by Molecular Approachs」 ・特別講演 2.Naohiro Inohara (University of Michigan Medical School, Department of Pathology) 「Innate and Acquired Immune Responses Mediated by Nod proteins」 ・シンポジウム 1(3題予定) 腸内フローラ解析の最前線 - 各種解析法の特徴と可能性 - ・シンポジウム 2(4題予定) 過敏性腸症候群(IBS)とプロバイオティクス ・一般講演(募集による) ・懇親会 6月1日(木)17:50～19:30(於 北里本館) <p>(2) 翌年度の学会開催計画立案と準備</p> <p>予定期間は2日間とし, 期日及び会長の決定, メインテーマの選択, 開催地の検討, 特別講演及びシンポジウムのテーマ決定, 一般演題発表の募集などを行う。</p> | <p style="text-align: center;">学 術 委 員 会</p> <p>1. 準備状況確認 2. 当日の分担等 3. 翌年度学会 次期会長 18年度 学術集会 構想提案</p> | <p style="text-align: center;">18年度 学会開催 6月1, 2日</p> | <p style="text-align: center;">学 術 委 員 会</p> <p>1. 学会開催後総括 2. 翌年度学会 メインテーマ 開催期日 など決定</p> | <p style="text-align: center;">学 術 委 員 会</p> <p>1. 翌年度学会 特別講演者 シンポジスト 一般演題募集要領 など決定</p> | <p style="text-align: center;">学 術 委 員 会</p> <p>1. 翌年度学会 プログラム 2. 次開催案内 など決定/発送</p> | <p style="text-align: center;">学 術 委 員 会</p> <p>1. 翌年度学会 開催案内 演題募集 など決定/発送</p> | | | | | | |

平成 18 年 度 事 業 計 画

II. 事業計画 - 3

| 執行 担当 | 事業計画内容 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--|---|----|---------------------------------|----|-------------------------|-----------------|----|-----------|-----------|-----|-------------------|-------------|----|
| 選考委員 会/総 企 画 務 委 員 局 会 / 推 薦 委 員 会 / 常 務 理 事 会 | <p>3. その他事業</p> <p>1) JBF 研究奨励賞候補者の募集 研究の助成あるいは振興の一環としてJBF研究奨励賞を該当者に授与し, 当該研究領域の発展を促す一助とする。 (JBF : Japan Bifidus Foundation)</p> <p>2) 公益法人の見直し作業に関連する当財団対処法の検討 関連情報の収集と対策の検討及び理事会・評議員会への報告</p> <p>3) 財団の将来計画に関する構想案の検討 財団の機能充実と発展を目指した将来構想案の検討作成</p> <p>4) 菌株の保存と分譲 当財団の寄付行為第5条(5)ビフィズス菌の保存と供給は休止とする。分譲の要望が少ないこと, 菌株保存・分譲の専門機関が充実にきて, 菌株入手が容易になっていることなどが休止の理由。財団として特徴的な菌株入手時には再開する。</p> <p>5) 出版物, 映画, ビデオテープ, CD 等の推薦 プロバイオティクス, プレバイオティクス, バイオジェニックス, 及び腸内細菌叢などの生体に及ぼす影響, あるいは生体防御等に関する紹介を含む啓蒙的出版物, 映画, ビデオテープ, CD 等で, 当財団が行う事業の趣旨に沿い, 且つ偏向がなく, 科学的な評価に耐え得る内容の作品であるとして, 当財団の推薦を受けたい旨の申し出があった場合, 所定の手続きを経た作品については財団として推薦する。</p> | | | | | | | | | | | | |
| | | | 第 10 回 腸内細菌学会 で授与 (2 名) | | | | | 選考 委員会 | | | 常務 理事会 審議決定 | | |
| | | | | | | 選考委員委嘱 推薦締切り | | | | | | 結果 アナウンス | |
| | | | | | 18 年度 候補者推薦 アナウンス | | | | 選考 委員会 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

推薦手続き
推薦希望の申し出であった場合, 常務理事会は推薦委員会を発足させ, その討議意見を参考に常務理事会は推薦の可否の決定を行う。また, 推薦の場合は理事, 評議員に経緯と結論を文書で報告する。

平成 18 年 度 事 業 計 画

III. 事業補強計画

| 執行担当 | 事業補強計画内容 | 補足事項 |
|---|---|---|
| 常務理事 会 / 企 画 委 員 会 / 総 務 局 | <p>1. 財団事業の普及と会員増対策</p> <p>大学, 研究機関及び関係企業, さらには一般社会(消費者)から注目される事業活動とは何かを問い直し, 事業に参加することのメリットをより明確化していくことを通じて会員増を図る。</p> | <p>食品と免疫, 腸内菌叢と免疫, この二つの主要課題への関心が高まっている。いずれも宿主の免疫機構を介した健康の増進あるいはその回復 維持に関わるものであり, 夫々の研究成果は共通し, あるいは相補うものである。換言すれば, 関係の研究者は広範囲に及んでいる。当財団設立趣意書にいう当該分野の学際的研究の推進に寄与するという点から, その主要事業を通じて関係情報発信の活発化と成果発表の場の提供の拡大を図り, 関係大学, 研究機関, 企業の研究者の関心を高める。</p> |
| | <p>2. 賛助会員の維持と新規参加勧誘対策の継続実施</p> <p>事業内容の充実, 会員優遇策の検討とアピール</p> | <p>財団出版書籍の無料配布 機関誌への広告掲載費の割引, 論文別刷料金の割引, 学会への招待と製品の展示, ホームページのリンク化など。</p> |
| | <p>3. 財団設立 25 周年記念式典の挙行</p> <p>第 10 回腸内細菌学会内でプログラム化する。</p> | |
| | <p>4. 財団設立 25 周年記念書籍の出版(4 ~ 5 月内を目標)</p> <p>1)「プロバイオティクス・プレバイオティクス・バイジェニクス - 腸内細菌の関わりを中心としたその研究と意義」</p> <p>2)「腸内細菌の分子生物学的実験法」</p> | <p>1)当該領域の今後の研究開発に参考となる知見とその機能性を研究する上において欠かせない基礎的知見を選択し, さらに基礎研究と製品開発の将来像と成人病予防などに有効な食品開発を示唆する内容となることを目指した書籍とする。</p> <p>2)先端的な実験法を紹介し, 当該研究分野の発展に寄与する。</p> |
| | <p>5. H. Tissier 論文(1900 年)の翻訳出版(4 ~ 5 月内を目標)</p> <p>「乳幼児の腸内菌叢に関する研究(正常と病態)」</p> | <p>不老長寿を説いた Metchnikoff の原著, ビフィズス菌の重要性を説いた Tissier の原著を翻訳出版することは, 研究者らが Probiotics, Prebiotics の原点を見直す機会となり, 新たな発想を生む素地づくりに貢献しよう。Tissier Medal の意義も補完できる。</p> |
| | <p>6. E. Metchnikoff 著書(1907 年)の訳本(1942 年)復刻出版(4 ~ 5 月内を目標)</p> <p>「長寿の科学的研究」</p> | |